

FT-727G

取扱説明書



八重洲無線株式会社

このたびはYAESU FT-727Gトランシーバをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。

本製品は厳しい品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などにもない、破損またはご不審な箇所がございましたら、お早めにお買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所サービスにお問い合わせください。

●お願い

正しい操作方法をご理解いただくために、お手数でも取扱説明書は最後までお読みくださるようお願いいたします。操作方法に誤りがあると、本製品の性能が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬトラブルや故障の原因になることがあります。

操作方法の誤りが原因で故障を生じた場合は保証期間中でも有償扱いにさせていただきますのでご注意ください。

●アフターサービス

万一故障のときはお買い上げいただきました**販売店**、または最寄りの**営業所サービス**まで修理をご依頼ください。**営業所サービスステーションの所在地**、**電話番号**はこの取扱説明書のうら表紙に記載してあります。

- ①保証期間はお買上げの日より1ヵ年です。くわしくは添付してある保証書をご覧ください。
- ②保証期間をすぎた修理の場合、部品代の他に規定の技術料をいただきます。
- ③不良部品を交換のため、部品だけをご希望になる場合には、お買上げの販売店にお申し込みになるか、最寄りの営業所サービスステーションまでお申し込みください。郵送をご希望のかたは現金書留をご利用ください。品物だけ先にお送りすることはできませんので、あらかじめご了承ください。

製品の改良のために、取扱説明書の写真などが一部製品と異なることがあります。あらかじめご了承ください。

144/430MHz デュアルバンド FMハンディトランシーバ FT-727G

●超小型、軽量、ハイパワーを実現

スーパーハンディトランシーバFT-727Gは、世界初のCPU搭載デュアルバンドハンディでコンピュータによるプリント基板の設計(CADシステム)、抵抗/コンデンサー/トランジスターなどに超小型で信頼性の高いチップ部品や新設計のパワーモジュールを採用するなど、随所に最先端技術を取り入れました。その結果、サイズは71×38×180.5(mm)、600(g)という小型ボディおよび軽量化に成功、Ni-CdパックFNB-4 Aと組み合わせて送信出力5Wのハイパワーを実現しました。

●高性能CPUで多機能を実現

FT-727Gは高性能CPUを搭載して、ハンディでは初めてのCATシステム、メモリー数は10chそのうち4chは送受信スワリット運用もできる多機能メモリー、任意のシフト幅が書き込める送信オフセット機能、プログラムスキャンなど多彩な機能を実現しました。しかも各機能は内蔵のリチウム電池によりフルバックアップ化をはかっています。

●パワーセーブ機能により省エネ化

受信無信号時にはCPU以外の電源を一定の周期(キーボードにて1秒～9秒まで9段階設定可能)で断続供給するパワーセーブ機能を搭載しました。これによりパワーセーブ時の平均消費電流は約16mAに減らすことが可能になりました。(0.5秒 受信：3秒パワーセーブ時)

●トーンエンコーダユニット内蔵

レピータアクセス用88.5HzのトーンエンコーダユニットFTE-4を内蔵、さらにオプションで37波のトーン周波数を選択できるトーンスケルチユニットFTS-6を用意してあります。

●ハンズフリーオペレーション

音声で送受信を自動的に切り換えるVOX回路を内蔵しました。オプションのヘッドセットYH-2と組み合わせて、スキーやサイクリングなど両手が自由に使える“ハンズフリーオペレーション”ができます。

●充実したオプションを用意

その他オプションとして充電器、ソフトケース、トーンスケルチユニット、スピーカマイク、ヘッドセット、Ni-Cdパックなどを用意しましたので充実したハムライフをお楽しみいただけます。

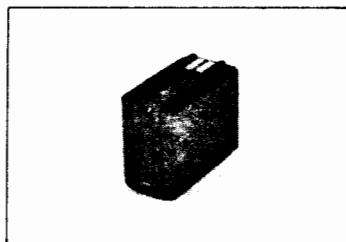
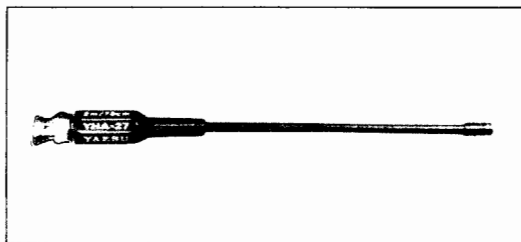
本機の性能を十分に発揮できるよう、ご使用いただくまえにこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご愛用いただき、趣味の王様といわれるアマチュア無線を大いにお楽しみください。

目 次

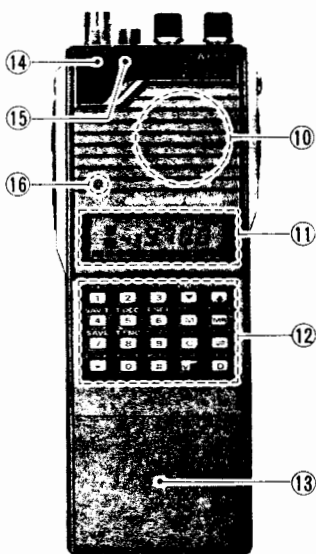
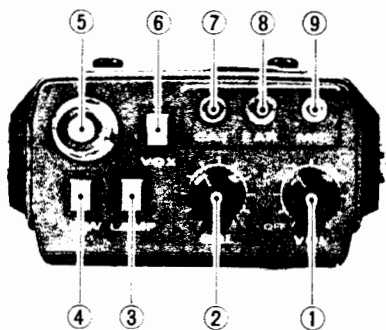
	ページ
付 属 品	2
各部の操作と接続	3
ご使用前に	13
オプション	14
使 い 方	18
各種の機能と操作	23
メモリーコントロール	23
コールチャンネルの設定	24
スキャンコントロール	24
プライオリティ	27
パワーセーブ	27
セミデュプレクス運用	28
送信オフセット機能	29
トーンエンコーダ、トーンスケルチ運用	30
エラー	31
レピーター運用	31
FTS-6トーンスケルチユニットの取付方法	34
定 格	36
ご 注 意	38
故障?と思う前に	40
アマチュア局免許申請書類の書き方	表 3

付属品 YHA-27 (Q3000046)
ホイップアンテナ

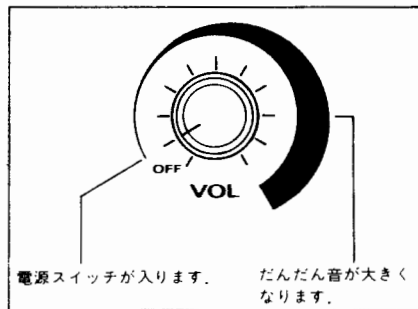
FBA-5A (D3000471)
電池ケース



各部の操作と接続

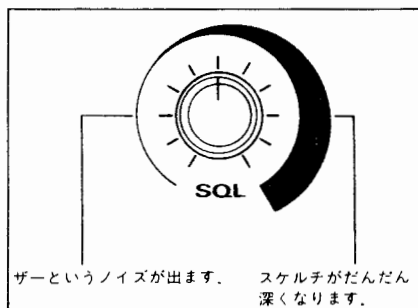


① VOL (POWER SWITCH)



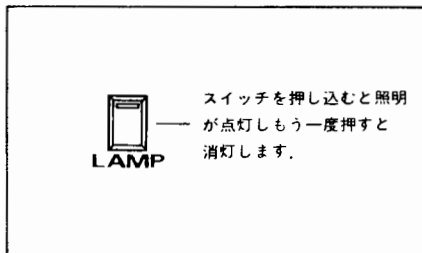
電源スイッチ付の音量調節器です。反時計方向にまわし切った位置で電源スイッチが切れ、時計方向にまわすとスイッチが入り音量が大きくなります。

② SQL



受信信号の入感がないときに出る FM 特有のノイズを消すスケルチ回路の調節器です。時計方向にまわすほどスケルチが深くなり、弱い信号ではスケルチが開かなくなります。通常はノイズが消える点より少し時計方向にまわした位置で使用しますが、目的外の信号でスケルチが開くような場合にはスケルチを少し深くするなど信号に応じて調節してください。

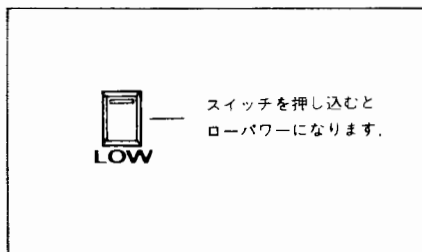
③ LAMP



⑫キーボードおよび⑩LCD表示器の照明用ランプスイッチです。夜間暗い所などで使用するときにこのスイッチを押して動作を確認できます。

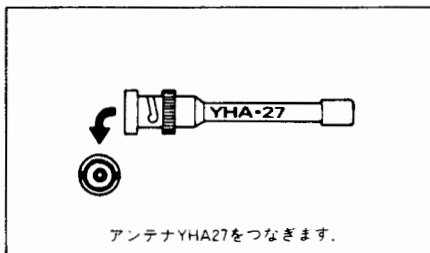
ロック付スイッチですので外部電源を使用してモバイル運用や固定運用などのように長時間照明するときに便利です。ハンディで使用するときは電池の消耗を防ぐため必要なときだけご使用ください。

④ RF (HIGH, LOW)



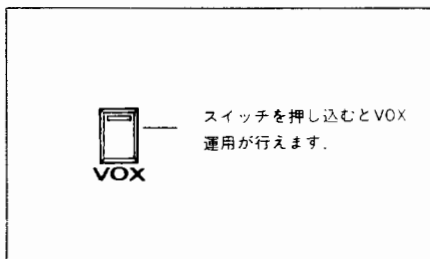
送信出力をHIGHまたはLOWに切り換えるスイッチです。スイッチを押し込むとローパワーになり、近距離間の通信などでは出力を下げて電池の消耗を少なくすることができます。

⑤ ANT



アンテナ接続用のBNC型コネクタです。通常は付属のホイップアンテナYHA-27を直接取り付けます。基地局やモバイル運用などでは50Ω系の外部アンテナも接続できます。

⑥ VOX



オプションのヘッドセットYH-2を使用しVOX(ボイスオペレーション)運用を行うスイッチです。

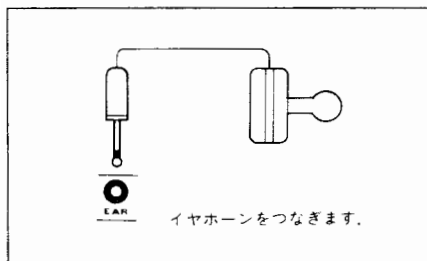
注 内部マイクおよびスピーカマイクではVOX運用は行えません。

⑦ CAT

オプションのインターフェースユニットを使用してパーソナルコンピュータを利用し各種のコントロールが行えます。

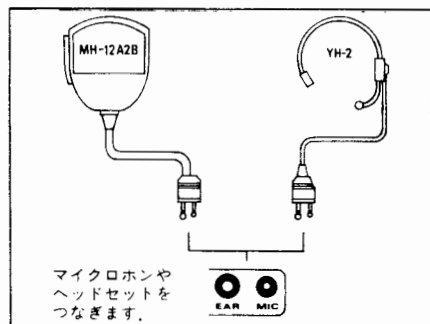
注) CAT端子に誤ってイヤホーンを接続すると故障の原因になりますので十分ご注意ください。

⑧ EAR



イヤホーンジャックです。イヤホーンを使用すると人込みや騒音の中でもクリアに受信できます。また、イヤホーンを使用中は内部スピーカからの音が出ませんから他人に迷惑をかける事はありません。

⑨ MIC



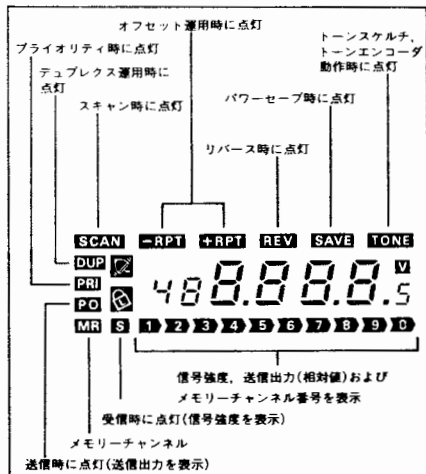
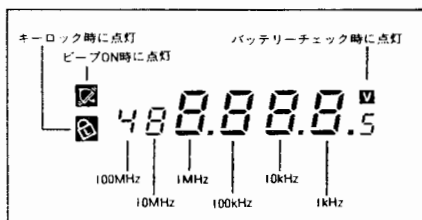
外部マイクロホンを接続するジャックです。⑧EARジャックと併用し、オプションのスピーカマイクMH-12A2Bや、ヘッドセットYH-2を接続して運用します。

⑩ スピーカ



外径36mmのダイナミック型スピーカの位置です。

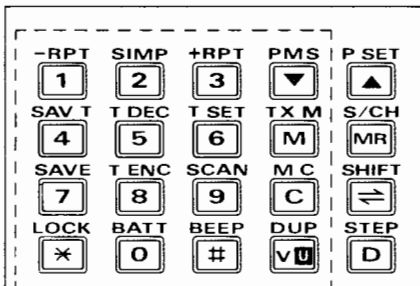
⑪ LCD表示器

周波数や信号強度、各種の動作状態を表示する液晶表示器です。運用周波数は6桁で表示します。



⑫ キーボード

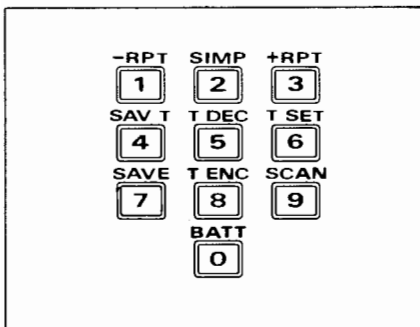
受信時に周波数の設定、メモリーの書き込みなど各種の操作を行うキーボードです。⑪LCD表示器内の (LOCK表示)が消灯しているときに動作します。また送信時には が点灯している状態でもDTMF機能として操作できます。



⑬PTTを押しながらキーを押すとDTMFの機能になります。(22ページ参照)

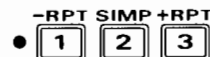
BEEPがOFFの状態でもキーを押している間BEEP音が出ますので動作の確認ができます。

数字キーなどの上側に表示してある動作は⑭FUNCスイッチを押しながらセットしてください。



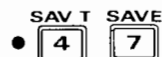
周波数やメモリーチャンネルなどの数値をセットするキーです。

▲FUNCスイッチを押しながら数字キーを押したとき



“-RPT”(レピート)、“+RPT”(レピート)は受信周波数に対して送信周波数をシフトさせるキーでレピータ運用などに使用します。キーを押すとLCDに**-RPT** または **+RPT** が点灯します。レピーター運用をしないときは、“SIMP”(シンプレックス)キーを押してください。この状態では、LCDにはなにも表示されず送信周波数と受信周波数が一致します。(29ページ参照)

※430MHz帯のシフト幅は、あらかじめレピーター運用の±5MHzがセットしてあります。



“SAVT”(パワーセーブタイム)を押すとパワーセーブの時間(1秒～9秒:9段階)をセットできるキーです。

“SAVE”(パワーセーブセット)を押すと“SAVT”でセットした時間をカウントします。受信時に信号が入感していないときは再びカウントしますが、入感したときまたは送信状態にしたときこの機能は停止します。(27ページ参照)

T DEC T ENC T SET
 ● **5** **8** **6**

“TDEC”(トーンデコーダ)は、特定の局を待ち受け受信をするときに操作するキーで、受信状態でLCDに**TONE**が点灯します。(トーンスケルチユニットFTS-6が必要です)。

“T ENC”(トーンエンコーダ)は、レピータなどをアクセスするときにセットするキーで、送信状態にするとLCDに**TONE**の表示が点灯します。

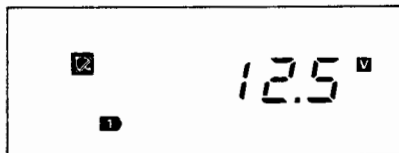
“TSET”(トーンセット)はトーンエンコーダおよびトーンデコーダの周波数をセットするキーです。本機は88.5Hzのトーンエンコーダ(FTE-4)を内蔵していますので、LCDの周波数表示に関係なく、自動的に88.5Hzのトーンを発生します。なおトーンエンコーダのトーン周波数をかえての運用やトーンスケルチ運用を行うときにはオプションのFTS-6が必要です。(30ページ参照)

● **SCAN**
9

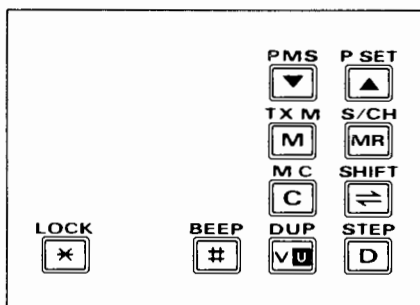
“SCAN”(スキャン)はダイヤルモード、メモリーモードにおいて、オートコントロールスキャンを使用するときに押すキーです。(24ページ参照)

● **BATT**
0

“BATT”(バッテリー)はバッテリー電圧を0.5Vステップでデジタル表示することができるキーです。(6.5V~12.5V間)



もとの状態にもどすときはもう一度“BATT”を押してください。

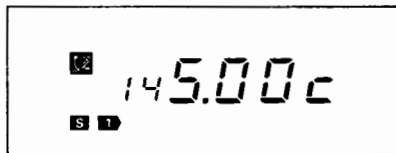


運用モードの選択、メモリーの書き込みなど各種の操作を行うキーです。

● **LOCK**

“*” (コールチャンネル) を押すとどの運用モードにいても即座にコールチャンネルに移れます。(2バンドのコールチャンネルをメモリーできます)

※出荷時コールチャンネルはクリアされた状態で何もメモリーしていません。メモリーの仕方は24ページを参照してください。



1kHzの桁にCを表示しコールチャンネルでの運用を表示します。

コールチャンネルの解除は使用条件により **D**、**MR** のどちらかのキーを押してください。

D でダイヤルモード、**MR** でメモリーモードに移ります。

▲FUNCスイッチを押しながら **LOCK** を押したとき

“LOCK”(ロック)を押すとキーボードを電子的にロックすることができるキーです。運用中に誤ってキーボードを押しても、ロックの状態では命令は伝わらず運用に支障ありません。このときLCDには **LOCK** の表示が出て、ロック状態であることを示します。

ロックの解除はもう一度“LOCK”を押すとLCDの **LOCK** が消灯します。

● **BEEP**
#

“#”(プライオリティ)はダイヤルモード、コールチャンネルモードを受信中、約5秒間に1回約0.5秒の間、メモリーチャンネルを受信するプライオリティ操作を行うためのキーです。(27ページ参照)

▲FUNCスイッチを押しながら **BEEP** を押したとき

“BEEP”(ビーブ)は各種のキー操作を行うときに機能動作を音として確認することができます。

“BEEP”をONにするとLCDに **BEEP** が点灯します。OFFにするときはもう一度“BEEP”を押してください。

● **PMS** **P SET**
▽ **▲**

“▽”(ダウン)、“▲”(アップ)を0.5秒以内のワンタッチで押すとダウンまたはアップ方向に1ステップ進みます。さらに0.5秒以上押しつづけるとスキャンが始まり、キーをはなすと停止します。

▲FUNCスイッチを押しながら **PMS** **P SET** を押したとき

“PSET”(プログラマブルセット)は指定帯域内スキャンのステップをセットするキーです。ステップ数は99ステップまでセットできます。(26ページ参照)

“PMS”(プログラマブルメモリースキャン)を押すとダイヤル周波数内を“PSET”でセットしたステップ数の範囲をスキャンします。(26ページ参照)

● **TX M** **S/CH**
M **MR**

“M”(メモリー)はメモリーチャンネルにメモリーするときに押すキーです。(23ページ参照)

“MR”はメモリーしたチャンネルを呼び出すときに押すキーです。(23ページ参照)

▲FUNCスイッチを押しながら  


を押したとき

“TX M”(TXメモリー)はセミデュプレックスメモリーを使用するときに押すキーです。(23ページ参照)

“S/CH”(Sメーター/メモリーチャンネル)はメモリーモードで運用しているときに、LCDに表示しているメモリーチャンネルまたはSメーターを切り換えるキーです。



“C”(クリア)は数値を押しまちがえたときに押すクリアキーです。

▲FUNCスイッチを押しながら  キー

を押したとき

“MC”(メモリークリア)はメモリーチャンネルをクリアするときに押すキーです。(24ページ参照)



“⇐”(リバース)はセミデュプレックス通信時に、送受信周波数を入れ換えるキーです。(29ページ参照)

▲FUNCスイッチを押しながら  キー

を押したとき

“SHIFT”(シフト)は“-RPT”、“+RPT”のシフト幅をセットするときに使用する

キーで144MHz帯と430MHz帯が別々にセットできます。

※430MHz帯のみ5MHzをセットしてあります。



“VU”(VHF, UHF)は144MHz帯と430MHz帯を切り換えるキーです。


▲FUNCスイッチを押しながら  キー

を押したとき

“DUP”(デュプレックス)は144MHz帯と430MHz帯の両バンドを使用しセミデュプレックス通信を行うときに操作するキーです。(24ページ参照)



“D”(ダイヤル)は周波数をセットするときや、メモリーモードからダイヤルモードに切り換えるときに使用するキーです。

▲FUNCスイッチを押しながら  キー

を押したとき

“STEP”(ステップ)はダイヤルモードの周波数ステップ(10kHz, 20kHz)を切り換えるスイッチです。

(なお LCD に表示している周波数が145.01MHzの場合、20kHzステップに切り換えると、145.01→145.03→145.05…と10kHzの桁が奇数の状態で変化します。)

⑬ 電池ボックス (FBA-5A)

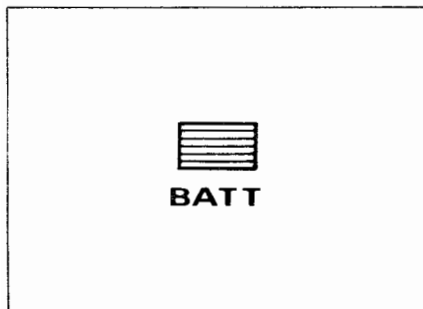
単3型乾電池を6本収納し、本体から取りはずしができる電池ボックスです。

⑭ BUSY、ON AIR インジケータ (緑色、赤色)



受信状態で②スケルチが開いたとき緑色に、送信状態では赤色に点灯します。

⑮ BATT インジケータ (赤色)



電池の電圧が6.5V以下になると点灯します。オプションのNi-Cdパックを使用している場合は再充電を行ってご使用ください。

注) 乾電池の種類によっては、交換直後の電池でも送信出力がHIの状態を送信したときに、このインジケータが点灯することがあります。

⑯ MIC

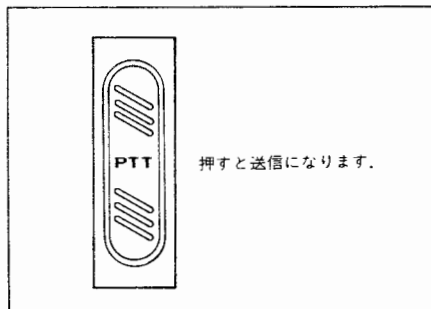
内蔵マイクロホンの位置です。ここに向って送話します。

⑰ FUNC スイッチ



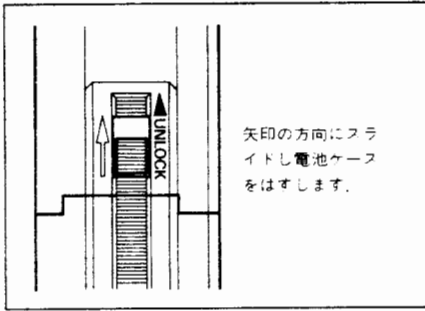
ファンクションスイッチを押しながら⑫キーボードのキー入力を行うと、キーの上側に表示してある動作をします。

⑱ PTT スイッチ

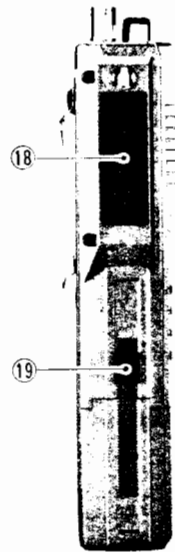
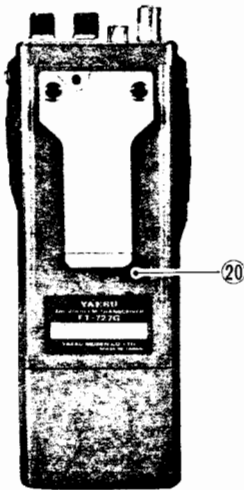


送受信を切り換えるプッシュアウトークススイッチです。スイッチを押すと送信、離すと受信になります。

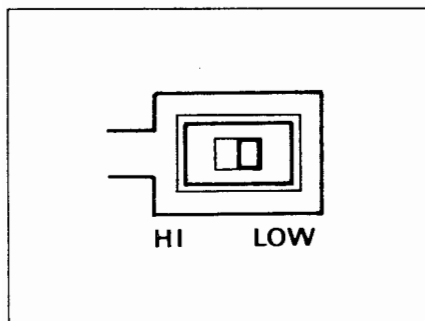
19 UNLOCK



電池ケースをはずすときに操作するアンロックレバーです。



⑳ VOX 感度切り換え



ヘッドセット YH-2 (オプション) を使用すると PTT スイッチを押さずに YH-2 のマイクロホン入力により自動的に送信になる VOX 運用ができますので両手をあけた状態で通信を楽しめます。

VOX 運用 (ボイスオペレーション) と

ご注意

- 内蔵のマイクロホンおよび外部スピーカマイクロホン MH-12A2B では VOX 運用はできません。
- 送話用の音声入力以外のマイクロホン入力 (外部雑音、第三者の声や音楽など) でも VOX 回路が動作するレベルの入力があれば送信状態になりますから ㉔ VOX 感度切り換えて VOX 回路の感度を下げ YH-2 のマイクロホンに向っての送話は大きめの声で行ってください。
- 送話中声の切れ目で受信に戻ることはないよう、音声が続いても約 1.5 秒間送信状態が続くようディレイタイムをとっています。
- スキャン中に YH-2 のマイクロホン入力があると PTT スイッチを押した時と同じ状態になりスキャンが停止します。

ご使用前に

アンテナについて

本機にはデュアルバンドホイップアンテナが付属していますから、アンテナ端子に取り付けるだけで運用できます。また、アンテナ端子に同軸ケーブルにより外部アンテナを接続すれば、ホームネットワークやモバイルで運用する場合でも通話距離をのばすことができます。さらに山頂などへ移動しビームアンテナを使用すると 100 km 以上の通信も不可能ではありません。外部アンテナを使用する場合には、50Ω系の同軸ケーブルで給電する 144MHz と 430MHz のデュアルバンド型のアンテナを BNC フラグで接続してください。なおアンテナを接続しない無負荷の状態での送信すると終段モジュールが破損することがありますから十分ご注意ください。

電源について

本機は、単 3 型のマンガン電池あるいはアルカリ電池など公称電圧 1.5V の一般用乾電池 6 本を本体より取りはずしができる電池ボックスへ挿入して運用します。

電池の挿入、交換は本体の UNLOCK レバーを矢印の方向へスライドしながら電池ボックスを本体よりスライドして取りはずします。取りはずした電池ボックスのフタを片方ずつ交互に開けて、乾電池の極性を

まちがえないように 3 本ずつ電池ボックスへ挿入しフタを閉じます。

電池を挿入した電池ボックスを本体へ取り付けて運用します。

なお、電池ボックスと同じ形で再充電により繰り返し使用できるニッケルカドミウム電池パック FNB-3A (10.8V, 425mAh) と大型の FNB-4A (12V, 500mAh) をオプションで用意していますからご利用ください。

また、FNB-3A、FNB-4A を使用しますと、本機を外部電源を用いて使用する事ができます。

モバイル運用時、FNB-3A、FNB-4A を使用して車のバッテリーから外部電源をとる場合には、高速走行時の電圧上昇や雑音混入防止の面から DC アダプタ PA-3 の併用をおすすめします。

なお、本機を外部電源を用いて使用する時には、39 ページの“外部電源について”を良くお読みになり、過電圧、逆接続に十分注意してご使用ください。

オプション

スピーカマイク

MH-12A2B

トランシーバを腰のベルトに固定して運用するときや、モバイル運用、ホームショック運用のときに便利なスピーカ付ハンドマイクロホンです。



MH-12A2B

モバイルブラケット

MMB-21

モバイル運用のときに便利なハンガーブラケットです。車のドアの窓ガラスの間に差し込んで運用できます。



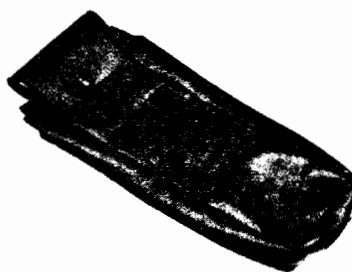
MMB-21

ソフトケース

CSC-17 (FBA-5A, FNB-3A使用時)

CSC-18 (FNB-4A使用時)

トランシーバをショックなどから守るソフトケースで、ショルダーベルトが付属しています。



CSC-17, 18

Ni-Cd電池パック

FNB-3A(10.8V)

FNB-4A(12V)

再充電可能なニッケルカドミウム電池パックです。 FNB-3A のとき送信出力は144MHz帯で約5W、430MHz帯では約4.5W
FNB-4A のとき送信出力は 144MHz帯、430MHz帯ともに約5Wになります。



FNB-3A

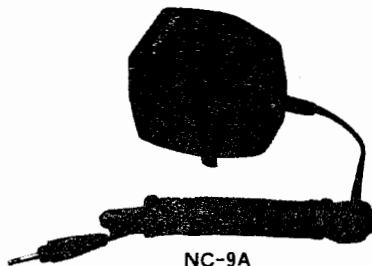


FNB-4A

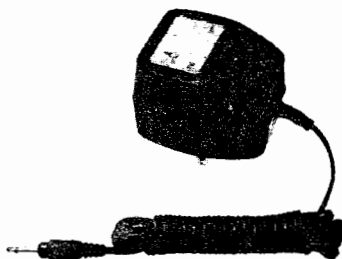
標準充電器

NC-9A/NC-18A

FNB-3A用標準充電器NC-9A、FNB-4A用標準充電器 NC-18A で充電時間は約15時間です。



NC-9A

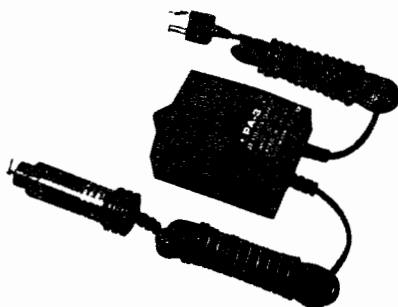


NC-18A

DCアダプター

PA-3

FNB-3AまたはFNB-4Aを使用してモバイル運用を行うとき、自動車のシガレットライターソケットより電源がとれるカーアダプタです。また、FNB-3A を使用している時には走行中に補充電もできます。



PA-3

VOXコントロール用ヘッドセット YH-2

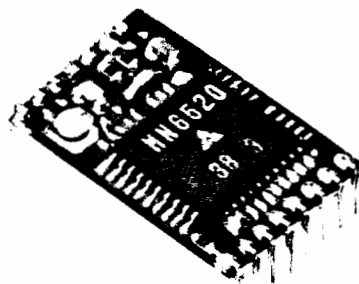
ハンズフリー・オペレーションを行うときのヘッドセットです。トランシーバを腰のベルトなどに固定し、VOX機能と組み合わせると、ハイキングやサイクリング、そして歩きながらなどトランシーバから手をはなしてオペレーションができます。



YH-2

トーンスケルチユニット FTS-6

特定局との待ち受け受信（トーンスケルチ受信）を行うときに取付けるユニットです。トーン周波数は37波でその内の1波をキーボードで設定して運用します。



FTS-6

急速充電器/DCアダプター NC-15

NC-15は、ニッケルカドミウム電池パック FNB-3A、FNB-4A をトランシーバに接続したまま短時間（FNB-3A …約1時間、FNB-4A …約1.5時間）で充電できる急速充電器で、交流100VでFT-727Gを使用するときの交流用電源としても使用できます。



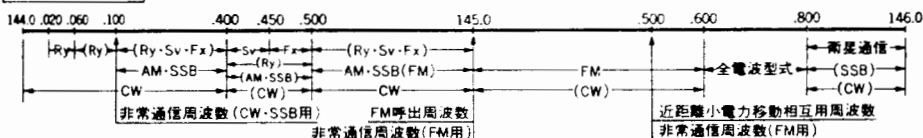
FT-727G/NC-15

JARL VHF/UHF帯の使用区分について

VHF UHF帯は、JARL（日本アマチュア無線連盟）によって、バンド内の使用区分が定められていますので、このルールに従って運用されるようおすすめいたします。

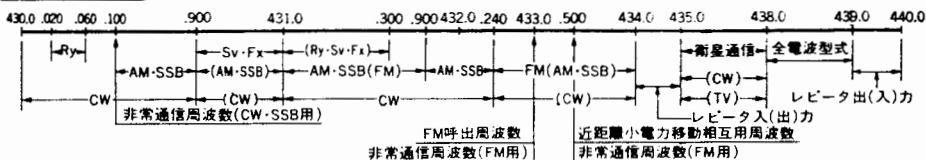
（昭和60年4月1日より実施の新区分）

144MHz帯



- (注1) 144.000MHz～144.020MHzの周波数帯は、月面反射通信、流星散乱通信、オーロラ反射通信などに使用する。
 (注2) 144.100MHz～144.200MHzの周波数帯は、主として遠距離通信に使用する。
 (注3) 144.500MHz～145.600MHzの周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。
 (注4) FM系によるRTTY、SSTV及びFAXの運用は、144.500MHz～145.000MHz及び全電波型式の周波数帯を使用する。

430MHz帯



- (注1) 431.900MHz～432.240MHzの周波数帯は、月面反射通信、流星散乱通信、オーロラ反射通信などに使用する。
 (注2) 431.000MHz～431.900MHz及び432.240MHz～434.500MHzの各周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。
 (注3) レビータ用入出力周波数帯の入出力周波数は、別に定める。
 (注4) FM系によるRTTY、SSTV及びFAXの運用は、431.000MHz～431.300MHz及び全電波型式の周波数帯を使用する。

使い方

まず“各部の操作と接続”“ご使用のまえに”を良くお読みください。

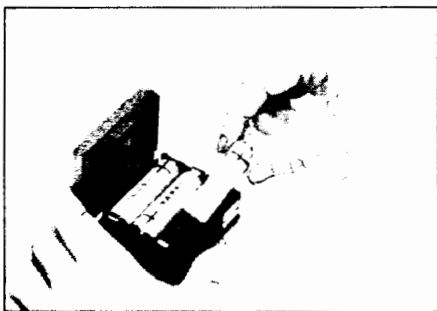
これによって操作方法と注意事項がお判りいただけたと思いますが、さらに周波数の設定、メモリーのしかたなどセットを梱包より取り出した時から順に準備と操作を試みましょう。

なお説明に使いました写真にはアンテナを接続していないものがありますが、送信するときには必ずアンテナまたはタミーロードを接続してください。

1. ①VOLツマミを反時計方向に回し切って電源スイッチが **OFF** になっていることを確認します。



2. ⑬電池ボックスのフタを開けて、電池を指定通り極性をまちがえないように挿入し、フタを閉じます。



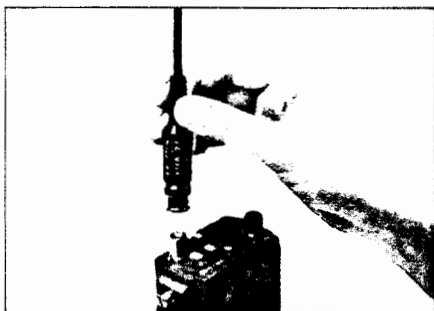
3. ⑬電池ボックスを本体の溝に合わせてスライドしながら取り付けます。



4. 電池を交換するときは、⑰UNLOCKレバーを矢印の方向へスライドしながら本体から、⑬電池ボックスを取りはずします。



5. 付属のアンテナアダプタを⑤ANTコネクタに接続します。



6. ②SQLツマミを反時計方向に回し切り、スケルチ開放の状態にしておきます。



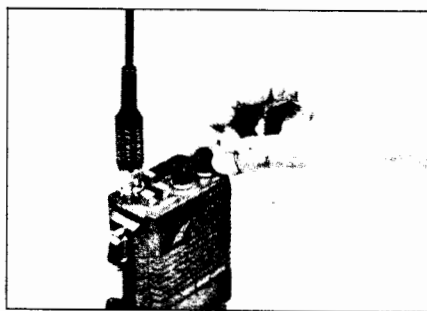
7. ④RFスイッチをHIGH(手前に出た状態)に設定します。



8. ⑥VOX ONスイッチをOFF(手前に出た状態)に設定します。



9. ①VOLツマミを時計方向に回して電源スイッチをONにします。⑭BUSYインジケータが点灯し、⑪LCD表示器に“144.000”を表示し144.000MHzが受信できます。

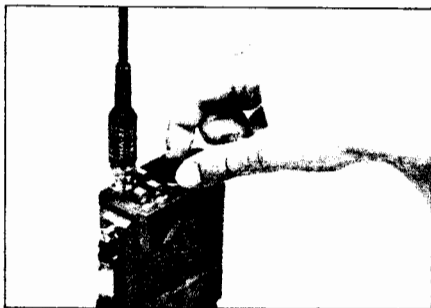


一番初めに電源スイッチを入れると自動的に144.000MHzが設定されますが、バックアップ機能を備えているため、次に電源スイッチを入れる時には、その前に電源スイッチをOFFにした時の周波数になります。

10. 適当な音量で受信できるように ①VO
Lツマミを調節します。



11. 表示した周波数に運用中の局がない場合には、ザーというFM特有のノイズが聞えます。このノイズは②SQLツマミを時計方向にまわしていくと、スケルチが閉じてノイズが消えて、同時に ⑭BUSY インジケータが消灯する位置がありますからそれより少しまわした位置で使用します。この位置よりさらにまわしますとスケルチを開くのに必要な信号レベルが高くなります。また弱い信号の受信を目的とするときには、スケルチを浅くしたり(反時計方向に戻す)あるいは完全に開くなどして相手局の信号強度にあわせて ②SQL ツマミを調節してください。



12. キーホードの操作により希望の周波数にセットします。

※439.70MHzを設定する場合には

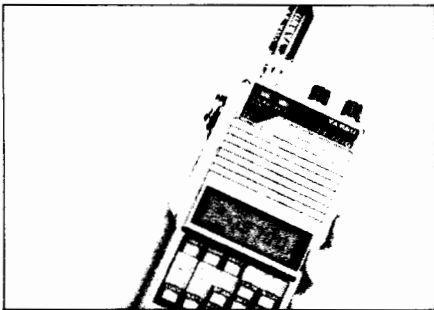
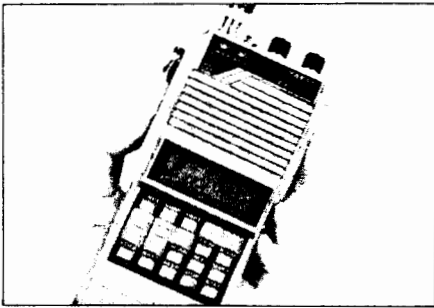
▼ → 9 → 7 → D と順に押します。



※なお、スキャンによる周波数の設定など各種の操作は、23ページ“各種の機能と操作”で説明してあります。

13. 受信ができましたら送信に移りましょう。送信するときには必ずアンテナまたはダミーロードを接続し、決して無負荷で送信しないように十分ご注意ください。

⑰PTTスイッチを押すと⑭ON AIR インジケータが点灯して送信状態に切り変わったことを知らせます。⑰PTTスイッチを押しながら⑯MICに向かって送話すれば通話ができます。⑰PTTスイッチをはなすと受信状態に戻ります。



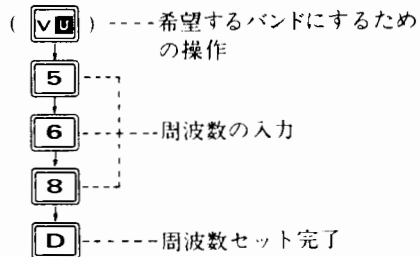
14. 近距離通信などの場合は、④RFスイッチを押し込み“LOW”の位置にします。

	144MHz		430MHz	
	HI	LOW	HI	LOW
FNB-4A	5W	500mW	5 W	500mW
FNB-3A	4.5W	500mW	4.5W	500mW

ダイヤル周波数のセット

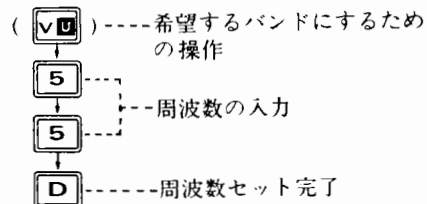
① 145.68MHzをセットする場合

(**VU**)、**5**→**6**→**8**→**D**と順に押します。



② 145.50MHzをセットする場合

(**VU**)→**5**→**5**→**D**と順に押し、10kHz 桁の“0”のキー入力を省略することができます。



(145.00MHzは**5**→**D**、435.00MHzは**VU**→**5**→**D**→でセットできます)

③ 目的の周波数が表示周波数に近い場合には、**▼**、**▲**キーでセットすると良いでしょう。

DTMF 機能とは

レピーターコントロールをはじめ、各種の遠隔制御等幅広い応用ができる機能で Dual Tone Multi Frequencies の頭文字からとった略語です。

- 1** キーを動作させると 697Hz と 1209Hz、
2 キーでは 697Hz と 1336Hz など 16 種の合成トーンが発生します。

※LOCK 中でも DTMF 操作はでき、また BEEP OFF の状態でもキーを押している間、BEEP 音が連続して発生します。

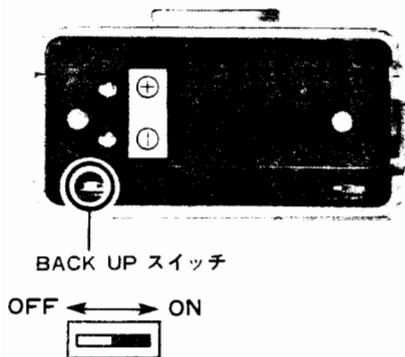
		HIGH TONE			
		1209Hz	1336Hz	1477Hz	1633Hz
LOW TONE	697Hz	1	2	3	▼
	770Hz	4	5	6	M
	852Hz	7	8	9	C
	941Hz	✕	0	#	∇

TONE FREQUENCY

無関係な表示やキー入力を受付ない時

外部電源を使用し、本機の電源スイッチ以外で電源を入れたり切ったりすると、電源の立ち上がり時に誤動作をして無関係な表示やキー入力を受付なくなることがあります。

このような状態になった場合には 1 度電源を切り、バックアップスイッチを 5 秒間 OFF にして戻したのち電源を入れてください。正常な動作に戻ります。(ただし、周波数メモリーなどは消え、出荷時の初期状態になります)。



※バックアップ機能 (電源を切るとメモリーなどが消える) が動作しなくなり、バックアップ電池 (リチウム電池) の消耗と思われましたら、サービスステーションにて交換して下さい。(有料)

各種の機能と操作

“各部の操作と接続”“使い方”の項目で簡単に説明しましたが、メモリーのセット、スキャンなど各種の機能と操作を説明します。

メモリーコントロール

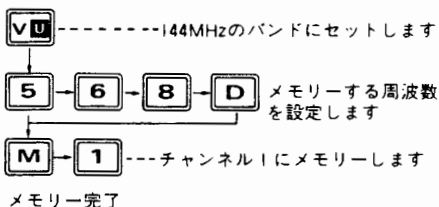
本機には10チャンネルのメモリーチャンネルがあり、キーボードの操作で容易にメモリーコントロールができます。

メモリーにはシンプレックスメモリー（送受信同一周波数をメモリーする）とセミデュプレックスメモリー（送信と受信の別周波数をメモリーする送受信スプリット運用）の2種類の方法があります。

1. メモリーの仕方

1) シンプレックスメモリー（1～0の10チャンネルにメモリーできます）

例1. 145.68MHzをチャンネル1にメモリーする場合

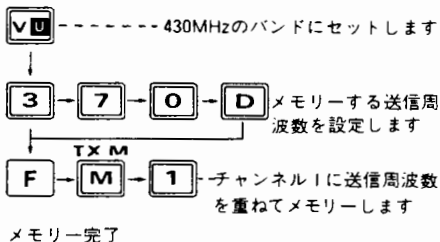


他のチャンネルにも同様にメモリーできます。

2) セミデュプレックスメモリー（1～4の4チャンネルにメモリーできます）

異なる送受信周波数を同じチャンネルにメモリーし、送受信スプリット運用を行う操作です。

例2. 例1でメモリーしたチャンネルに送信周波数433.70MHzを重ねてセミデュプレックスメモリーする場合



※144MHzのバンドをメモリーするときには を押してセットしてください。

2. メモリーセット中に押し間違えたとき

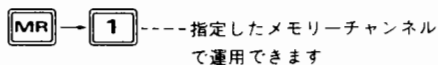
を押してもう一度最初からキーを入力します。

3. メモリーチャンネルの呼び出し

希望のメモリーチャンネルを指定して呼び出します。

※メモリーしていないチャンネルを呼び出すとLCDにはメモリーチャンネルの番号のみ表示します。

例3. 前項で書き込んだチャンネル1を呼び出す方法



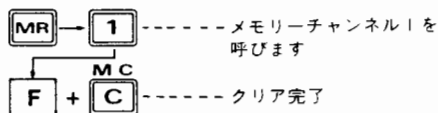
メモリーコントロールのときに信号強度を見たいときは **F** + **S/CH MR** を押すが、一度送信するとメモリーチャンネル表示が **S** メーター表示になります。メモリーチャンネルを表示させたいときは、もう一度 **F** + **S/CH MR** を押してください。（ダイヤルコントロールの受信時は **S** メーター表示です）

4. メモリーチャンネルのクリア

シンプレックスまたはセミデュプレックスメモリーをクリアする場合

クリアしたいメモリーチャンネルを呼び出し **F** + **MC** を押します。

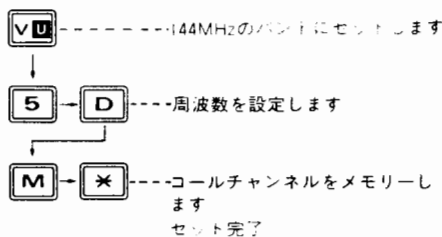
例4. メモリーチャンネル1をクリアするとき



コールチャンネルの設定

コールチャンネルはメモリーチャンネルに書き込むのと同じく、周波数を自由にメモリーできます。

例5. コールチャンネルに145.00MHzをセットする場合



430MHz のコールチャンネルをメモリーするときも同様に **VU** を押して430MHz のバンドにしてセットすることができます。

スキャンコントロール

スキャン操作にはダイヤル周波数スキャン、メモリーチャンネルスキャン、指定帯域内スキャン (PMS) の3種類の方法があり、ダイヤル周波数スキャン、メモリーチャンネルスキャンはマニュアルコントロールとオートコントロールの2通りの方法で操作できます。

マニュアルコントロール

受信信号の有無に関係なく、マニュアルでスキャンコントロールを行う操作です。

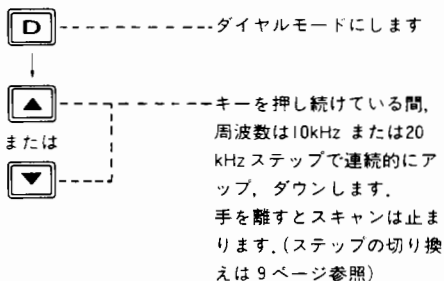
オートコントロール

信号が入感したチャンネルでスキャンが一時止まる方法です。前もって無信号時にスケルチを閉じて、信号が入感したときにスケルチが開くように②SQLツマミをセットしておきます。

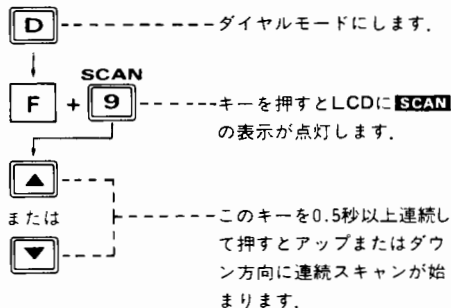
連続スキャン中に信号が入感するとその周波数で一時的に止まり、信号がなくなり5秒間経過するとふたたびスキャンを開始します。

1. ダイヤル周波数スキャン

1) マニュアルコントロールの場合



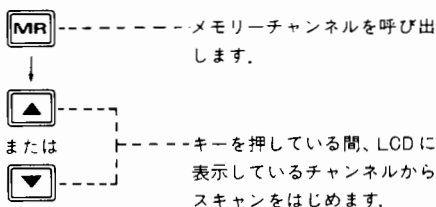
2) オートコントロールの場合



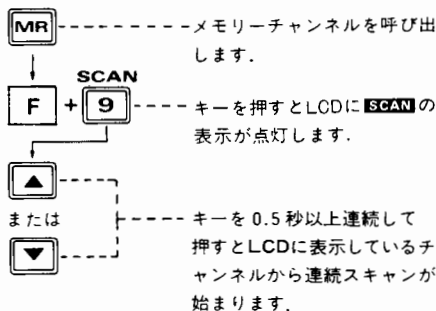
※アップスキャンした場合、144MHz帯では146.000MHz、430MHz帯では440.000MHzまでスキャンしたあとそれぞれ下端の144.000MHz、430.000MHzに移り上端に向うエンドレス動作をします。ダウンスキャンの場合はこの反対です。

2. メモリーチャンネルスキャン

1) マニュアルコントロールの場合



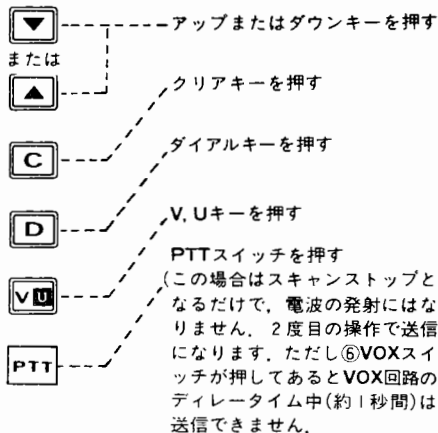
2) オートコントロールの場合



※アップスキャンの場合は **8** → **9** → **0** → **1** の順となり、ダウンスキャンの場合は **2** → **1** → **0** → **9** となります。ただしメモリーしていないメモリーチャンネルはスキップします。

3) オートスキャンの停止

オートスキャンは次の5種類の方法で停止することができます。



4) オートスキャンの解除

F + **9** (SCAN) ... LCDの **SCAN** 表示が消灯し解除します。

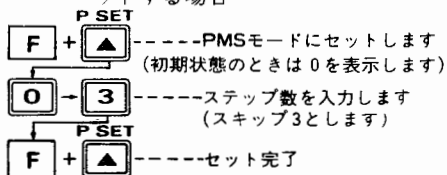
3. 指定帯域内スキャン(PMS)

バンド内をセットしたステップの数だけスキャンコントロール操作を行うことができます。(20kHzステップで3とすると60kHz幅の4波間のスキャン)

指定帯域内スキャンのステップは99ステップまでセットできます。

1) 指定帯域内スキャンのステップセット

例6. PMSのステップを3ステップにセットする場合



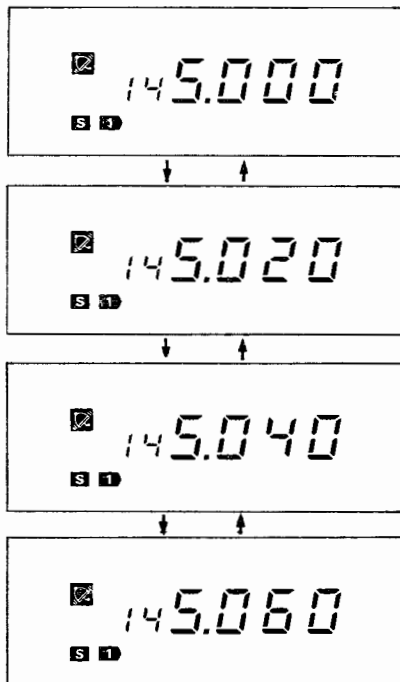
2) 指定帯域内スキャンの操作

指定帯域内スキャンはどのモードになってもスキャンをスタートすると、自動的にダイヤルモードに切り換わりスキャンを開始します。

またスキャン方法はセットしたステップの数だけ下端から上端、上端から下端へと周波数が繰り返してスキャンします。

例7. 例6までセットした3ステップのPMSでスキャンする場合

F + ▼ ----- 周波数を繰り返してスキャンします



スキャン中に信号が入感すると、その周波数で止まります。

3) 指定帯域内スキャンの解除

指定帯域内スキャンは次の4種類の方法で解除することができます。

D-----ダイヤルキーを押す

C-----クリアキーを押す

VU-----V、Uキーを押す

PTT-----PTTスイッチを押す

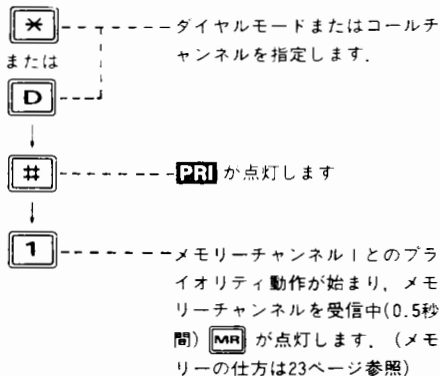
(この場合はスキャンストップとなるだけで、電波の発射になりません。2度目の操作で送信になります。ただしVOXスイッチが押し続けているとVOX回路のティレータイム中の約1秒間は送信できません)

プライオリティ

ダイヤルモード、コールチャンネルを受信中、約5秒間に1回約0.5秒の間メモリーチャンネルを受信します。

1. プライオリティ操作

例8. メモリーチャンネル1 (1~0の10メモリーで可能です) とダイヤルモードまたはコールチャンネルとのプライオリティ操作



メモリーチャンネルに信号が入感すると、プライオリティ動作からメモリーモードに移り、その周波数でのメモリーモードの運用になります。

2. プライオリティ動作の解除

プライオリティ動作は次の3種類の方法で解除することができます。

D-----ダイヤルキーを押す

C-----クリアキーを押す

VU-----VUキーを押す

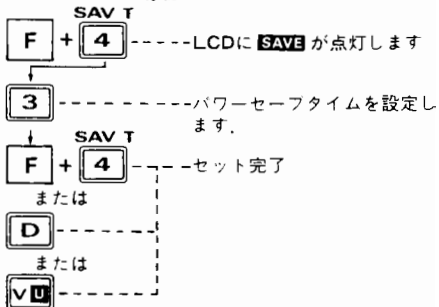
パワーセーブ

受信時スケルチ回路に連動して無信号のときにCPU以外の電源を断続供給し電池の消耗を少なくする操作です。パワーセーブタイムは、1秒から9秒までの9段階で数字キーによりセットができます。

1. パワーセーブタイムセット

パワーセーブの時間をセットする操作です。

例9. パワーセーブタイム3秒にセットする場合



2. パワーセーブセット

パワーセーブセットは次の操作を行います。

[F] + **[7]** -----パワーセーブ機能を開始します。

0.5秒間受信周波数を受信、表示した後セットしたパワーセーブ時間から0.1秒ごとにカウントダウンして0.0秒になると0.5秒間その周波数を受信します。

この時、その周波数に信号がない場合には再びパワーセーブ機能がスタートします。

カウントダウン0.0のときに信号が入感するとその時点でパワーセーブが停止して継続して受信できます。(**[F]** + **[SAVE]** でパワーセーブが再スタートします)

3. パワーセーブの解除

パワーセーブは次の2種類の方法で解除することができます。

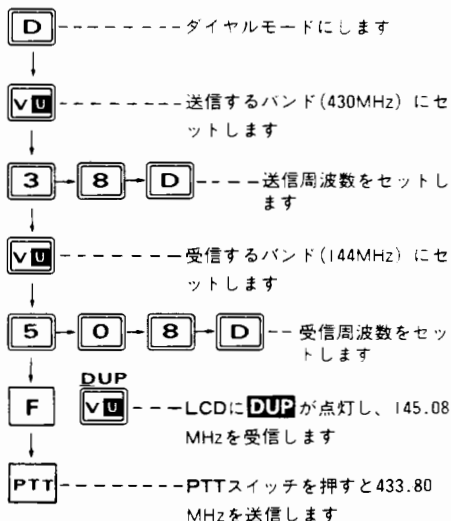
[C] -----クリアキーを押す

[D] -----ダイヤルキーを押す

セミデュプレックス運用

ダイヤルモードの144MHz帯と430MHz帯の両バンドを利用し、セミデュプレックス通信を行うことができます。

例10. 145.08MHzを受信して433.80MHzを送信する場合



スキャン動作などの解除に行う操作により移行する状態

- [D]** を押して解除(停止)した場合.....ダイヤルモードの周波数に
- [C]** を押して解除、停止した場合.....その操作をはじめる前の状態に
- [VU]** を押して解除、停止した場合.....ダイヤルモードの周波数に
- [V]** **[▲]** を押して停止した場合.....その時の状態
- [PTT]** を押して停止した場合.....一度目は停止、二度目以降は送信
- [*]** を押した場合.....すべてコールチャンネルへ移行

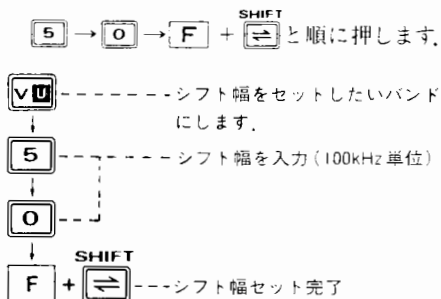
送信オフセット機能



送信周波数を受信周波数から任意の値だけシフトする操作で、144MHz帯と430MHz帯に別々に設定できます。





1. 送信オフセット操作

1) シフト幅セット

ダイヤルモード、コールチャンネルモードいずれかの状態に希望のシフト幅をセットします。シフト幅を5MHzにセットする場合は、



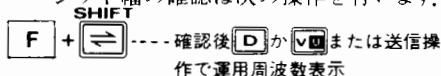
 か、 を押すか、送信操作を行うと運用周波数の表示にもどります。

(シフト幅600kHzの場合は  →  →  +  と押して0.6MHzシフトで入力します)

※430MHz帯には5MHzシフトをセットして出荷しています。

2) シフト幅の確認

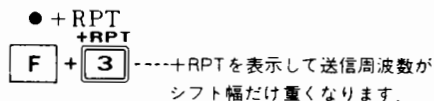
シフト幅の確認は次の操作を行います。



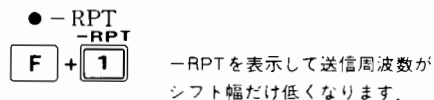
3) 送信オフセット運用

シフト幅セット後、シフト方向を指定

して送信オフセット運用を行います。



送信時には、セットしたシフト幅だけプラスした送信周波数になります。



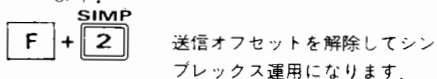
送信時には、セットしたシフト幅だけマイナスした送信周波数になります。

※+RPTまたは-RPTを表示しているすべての周波数でシフトします。

※チャンネル1~チャンネル4にセミデュプレックスメモリーをしてある場合は送信オフセット運用はできません。

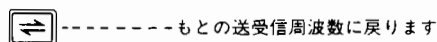
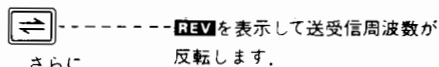
4) 送信オフセット解除

送信オフセット運用を解除し、シンプレックス運用を行う場合は次の操作を行います。



2. リバース操作

送信オフセット運用時に送受信周波数を反転するリバース操作です。



トーンエンコーダ，トーン

スケルチ運用

1. トーンエンコーダ運用(FTE-4)

レピーターアクセス用88.5Hzのトーンエンコーダ(FTE-4)を内蔵しています。FTE-4を使用する場合にはLCDに表示しているトーン周波数に関係なく自動的に88.5Hzのトーンを発生します。

トーンエンコーダのセット

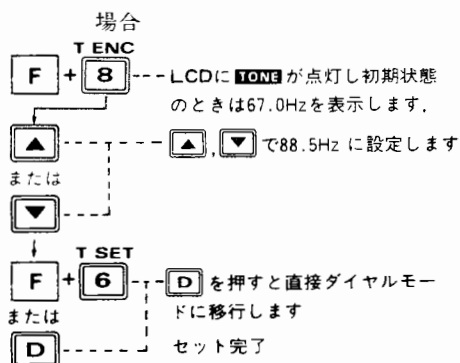
F + **T ENC** **8** セット完了
(送信するとLCDの **TONE** が点灯します)

2. オプションのトーンスケルチユニット(FTS-6)を取り付けて使用する場合

特定の局と待ち受け受信を行うトーンデコーダ運用および、レピーターなどのアクセスを行うトーンエンコーダ運用をセットするトーンスケルチです。

1) トーン周波数のセット

例11 トーン周波数88.5Hzをセットする



トーン周波数はダイヤルモード(144、430MHz)、メモリーチャンネル、コープチャンネルごとに独立して設定できます。

2) トーンスケルチの運用

▲トーンエンコーダのセット

あらかじめトーン周波数をセットしておきます。(例11参照)

F + **T ENC** **8** --- セット完了
(送信するとLCDの **TONE** が点灯します)

▲トーンデコーダのセット

あらかじめトーン周波数をセットしておきます。(例11参照)

F + **T DEC** **5** --- セット完了
(LCDに **TONE** が点灯します)

3) トーンスケルチの運用の解除

▲トーンエンコーダの解除

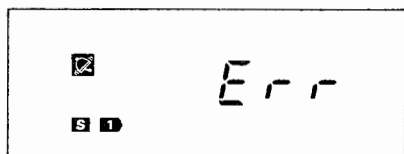
F + **T ENC** **8** --- トーンエンコーダが解除になります。
(LCDの表示は変化しませんが、送信すると**TONE**が消灯しますので確認できます)

▲トーンデコーダの解除

F + **5** ^{T DEC} ---トーンデコーダが解除になります。
(受信中LCDの **●TONE** が
消灯します)

エラー

送信のシフト幅がバンドエッジをこえるなど送信操作が無効なときにエラーメッセージをLCDに表示します。



レピーター運用

レピーター用周波数設定

430MHz帯に許可になったレピーター方式はJR1WA局の場合を例にとると、434.02MHzの信号を受信し439.02MHzで再送信する5MHzアップシフトの方式です。

これは、トランシーバからみた場合は434.02MHzで送信し、439.02MHzを受信することになります。また、88.5Hzの連続トーンによるCTCSS方式です。

FT-727Gでレピーター局を動作させる周波数等の設定には次の2通りの方法があります。

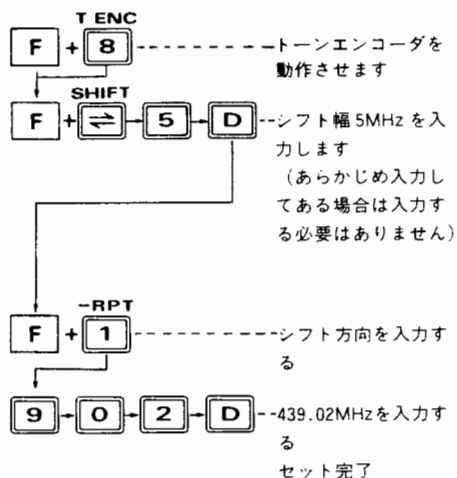
1. シフト幅を入力して受信周波数に対して送信周波数がシフトする方向と幅を入力して行う+RPT, -RPT機能による運用方法。
2. 受信周波数と送信周波数を重ねてメモリーするセミデュプレクスメモリーを使用する運用方法。

一度電源を切ると停止、消去する機能は……

- (1) スキャン動作は電源を切るとその時の状態で停止し電源を入れても再スタートしません。
- (2) デュプレックス状態やBEEPがOFFのときに電源を切って、再び電源を入れたときシンプレックス状態になり、BEEPはONになります
- (3) セーブ動作中に電源を切るとふたたび電源を入れても再スタートしません。
(セーブタイムのみメモリーしています。)

1. +RPT、-RPT機能による運用方法

例12. JR1WA局、439.02MHzをセットして運用する場合



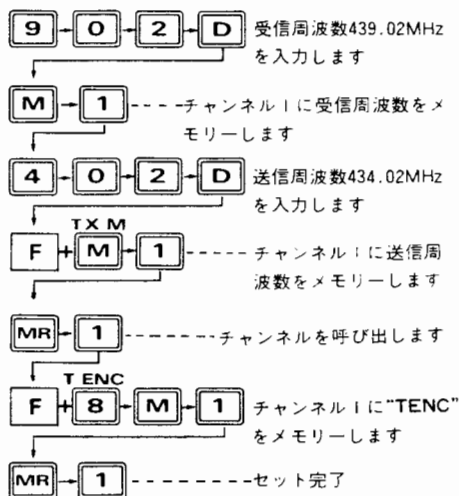
(注) 出荷時に430MHz帯は5MHzシフトがセットしてあります。

2. セミデュプレックスメモリーによる運用方法

+RPT、-RPT機能による方法では、キーボード、メモリーなどすべての方法で設定した周波数がシフトするため通常の通信とレピーター通信でシプレックス/セミデュプレックスの切換、トーンエンコーダの動作/停止の操作が必要ですが、メモリー方式によると1チャンネル～4チャンネルまで受信周波数、送信周波数、トーンエンコーダの動作を一つのメモリーチャンネルに重ねてメモリーできるため、メモリー呼び出し操作により簡単にレピーター運用ができます。

メモリー方式によるレピーター運用は、将来レピーター局によってシフト幅やシフト方向の変更増加に対応でき、またシフト設定/解除、トーン停止などの操作が不要になります。

例2 JR1WA局、439.02MHzをチャンネル1にセミデュプレックスメモリーする場合(23ページ参照)



リバース操作

⇄ キーを押すと送受信の周波数が反転して相手局がレピーターに送信している電波を受信できますからレピーターを通さずに直接相手局と通信が行えるかどうかチェックすることができます。

(29ページ参照)

2. レピーター局を動作させる 運用方法

日本のアマチュア用レピーター局はC
TCSS* によるアクセス方式でトーン信
号には88.5Hzを使用することになってい
ます。(※Continuous Tone-Controlled
Squelch Systems; 連続トーンスケルチ
制御方式)

すなわち、アマチュア用レピーター局
は、88.5Hzの連続トーンを伴った信号を
受信した時のみ中継、再送信されます。

基本的な運用方法としては、多数のア
マチュア局が使用するものですから、

1. 長時間の使用や独占はしない。
2. 不必要な大電力での送信は行わ
ない。
3. レピーター局を通さなくても通信
できる場合には使用しない。

などを必ず守ってください。

FTS-6トーンスケルチユニットの取付方法

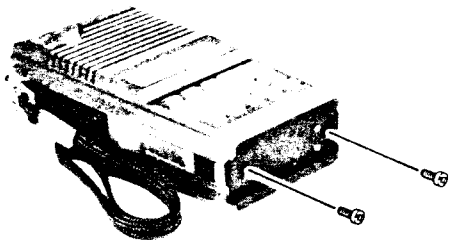
FTS-6はFT-727Gに組み込んでキーボード操作により36トーンの中の1トーンを選択して使用できるトーンスケルチユニットで、デコーダ回路を止めてトーンエンコーダとしても使用できます。

取付方法

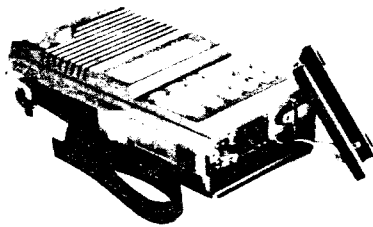
- ① 電池ボックスを外します。
- ② 本体底面部のビス2本をとってバッテリーボックス取付部を外します。(第1図)
- ③ バッテリーボックス取付部の内側がFTS-6の取付場所、すでにトーンエンコーダFTE-4が取り付けられていますから抜き取ります。(第2図)

- ④ FTS-6の取付方向をピン数(右側7左側8)により確認してソケットに取り付けます。(ピンが曲らないよう左右平均に静かに押し込んでください。(第3図))
- ⑤ FTS-6は標準セットにより、周波数偏移が $\pm 0.5\text{kHz}$ になるよう調整の上出荷しておりますので、取付後に調整の必要はありません。万レベル調整が必要な場合には、右上のVR1で行います。

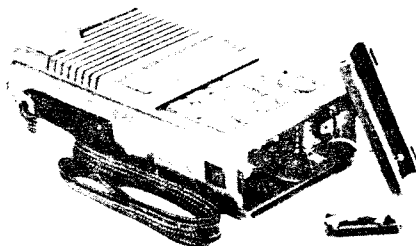
- ⑥ バッテリーボックス取付部を元通りにビス止めしてFTS-6の取り付けは終了です。
- ⑦ トーンスケルチ又はトーンエンコーダを動作させるには30ページを参照してください。
- ⑧ FTS-6をはずす場合には、FTE-4か下図のように $1/8\text{W } 27\text{k}\Omega$ の抵抗を取り付けないと受信できませんから、ご注意ください。(第4図)



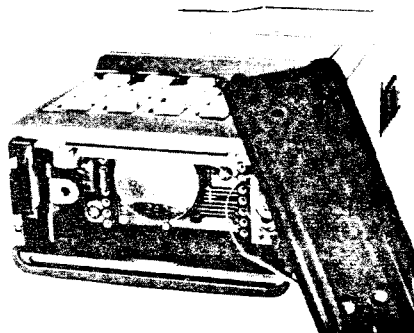
第 1 图



第 3 图



第 2 图



第 4 图

定 格

共 通

送受信周波数範囲	144.00—146.00MHz 430.00—440.00MHz
送受信周波数	上記周波数範囲内で10kHz/20kHzステップ
電波の型式	F3(FM)
アンテナ	デュアルバンド ホイップアンテナ(BNC接栓) 外部アンテナ使用可
電 源	FBA-5A(単3型 乾電池6本9V) (*印オプション) FNB-3A(10.8V型Ni-Cd電池6本) FNB-4A(12.0V型 " " NC-15(AC-DCアダプタ、FNB-3A/4A 併用)
電源電圧範囲	直流6.0V—15V
消費電流	表1参照
ケース寸法	71×38×180.5(mm) FBA-5A実装時
重 量	約600g (電池ケース、乾電池6本、ラバー アンテナ、ハンドストラップ付)

送信部

定格終段入力	12W(144MHz帯) 14W(430MHz帯)
(送信出力)表2参照	
変調の方式	リアクタンス変調
最大周波数偏移	±5kHz
占有周波数帯域幅	16kHz以内
不要輻射強度	-60dB以下
出カインピーダンス	50Ω不平衡
マイクロホン	エレクトレットコンデンサー 内蔵(インピーダンス2kΩ)、オ プションのスピーカ/マイク ロホンMH-12A2B、ヘッドセッ トYH-2使用可能
トーンエンコーダ	88.5Hz

受信部

受信方式	ダブルコンバージョンスーパー ヘテロダイン
第1中間周波数	16.9MHz
第2中間周波数	455kHz
受信感度	0.25μV 入力 SINAD 12dB以上 1μV 入力 S/N 30dB以上
選 択 度	15kHz以上/-6dB 30kHz以下/-60dB
低周波出力	450mW以上8Ω負荷 THD10%

★デザイン、定格および回路定数は改善のため予告なく変更することがあります。

★使用半導体は同等以上の性能をもつ他のものを使用することがあります。

周波数	電源電圧10.8V時			電源電圧12.5V時			
	受信時	スケルチ時	パワーセーブ時(平均)	送信時			
			2:1~18:1	HI	LOW	HI	LOW
144MHz	約150mA	約50mA	約24mA ~約14mA	約1.30A	約550mA	約1.30A	約550mA
430MHz	約150mA	約50mA	約24mA ~約14mA	約1.35A	約600mA	約1.40A	約600mA

表 1

周波数	144MHz		430MHz	
電力	終段入力	出力	終段入力	出力
FBA-5A (単3型乾電池6本) 9V	3.5W	2.0W	3.5W	2.0W
FNB-3A 10.8V	9.5W	4.5W	9.8W	4.5W
FNB-4A 12V	12W	5.0W	14.0W	5.0W

表 2

ご注意

■安全上の注意

- 電源電圧は、
6.0～15Vです。マンガン乾電池(FBA-5A使用)またはオフションのニッケルカドミウム電池パック(FNB-3A/FNB-4A)あるいは急速チャージャー/DCアダプタ(NC-15)をご使用ください。
- 異常と感じたときは、
煙がでている、変な臭いがする……などの故障状態のまま使用すると危険です。すぐに電源スイッチを切り、お買い上げの販売店または当社サービスステーションへ修理をご依頼ください。
- セットの内部に触れることは、
故障の原因となります。内部の点検、調整はなるべくお買い上げの販売店または当社サービスステーションへお任せください。
- 水がこぼれたときは、
セットのそばに花びん、化粧品、薬品、飲料水などの入った容器を置かないでください。万一内部に水が入った場合は、電源スイッチを切り、お買い上げの販売店または当社サービスステーションへご相談ください。
そのまま使用すると故障の原因となります。

■取扱上の注意

- 変形、変色、熱、雑音、破損などを防止するため、次のような場所はできるだけさけてください。
○周囲温度が極端に高い所または極端に低い所、○湿気の多い所、○寒い部屋から急に暖かい部屋への移動、○直射日光の当る所、○暖房器のそば、○不安定な所。
- ハンディで使うとき、
人込みのなかではアンテナの先端で他の人に思わぬケガをさせることがありますので、十分ご注意ください。
- 新幹線の中や無線中継所の近くでは、
業務用無線通信に妨害をあたえる場合がありますのでご注意ください。

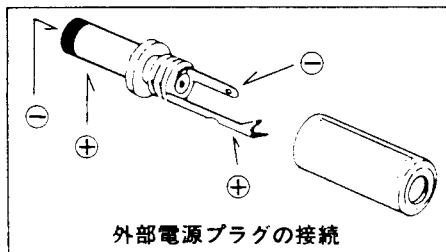
- 航空機の中では、
無線装置の使用は禁止となっていますのでご注意ください。
- 外部アンテナは、
テレビアンテナや、電灯線からなるべく離してください。
- ケースが汚れたら、
中性洗剤などで汚れを落とし、乾いた布でふきとります。シンナーやベンジンは使用しないでください。

■外部電源について

- 本機に接続する外部電源は、必ず**6.0～15V**の直流電源を使用してください。
- 外部電源プラグの極性に十分注意してください。外部電源プラグの接続は下図を参考に、プラグの外側がプラス(+)、内側がマイナス(-)になるように配線し、オプションの**FNB-3A**または**FNB-4A**を使用してADPTジャックに加えてください。(プラグは付属していませんのでお買い上げ店などで別にお求めください)

特に、車載等で車のバッテリーから電源をとる時にはつぎの点に注意してください。

1. 12V型バッテリーを使用している車であること。バス、トラックなどの大型車で、24V型バッテリーを使用している車では使えませんので、お買い上げの販売店等にご相談ください。
 2. 車のボディにバッテリーのマイナス電極が接続してあるマイナス接地の車であること。
 3. 走行中など、エンジンの回転数が上がったような場合でも電圧が15Vを超えることがないようにレギュレータが調整されていること。
 4. エンジンを停止した状態で送信を長く続けるとバッテリーが過放電になり、つぎにエンジンを始動するときに支障を生ずることがありますので十分ご注意ください。
- なお、シガレットライター用プラグを使用して電源を取る場合には、接触不良を起さないよう注意してください。



故障?と思う前に

故障かな?と思ったら……

修理を依頼する前に、ちょっとお確かめください。

■音がでない

- 電源スイッチはONになっていますか。
- スケルチの調節は適切ですか。
- 電池ボックスの取り付けはまちがっていませんか。
- 電池(外部電源)の電圧は正常ですか。
- ホイップアンテナは確実に接続していますか。
(外部アンテナは確実に接続していますか。)
- イヤホンまたはヘッドセットの接続はまちがっていませんか。

■電波がでない

- PTTスイッチは確実に押していますか。
- ホイップアンテナは確実に接続していますか。
(外部アンテナは確実に接続していますか。)
- 電池(外部電源)の電圧は正常ですか。
- VOXスイッチはONになっていますか。
(YH-2使用時)

■こんなとき

- トーンスケルチユニットをはずしたら受信できなくなった。(かすかに聞こえる)
 - トーンスケルチ取付用ソケットにトーンエンコーダユニット FTE-4 が抵抗の差し込みを忘れていませんか。
(34ページ参照)
- メモリーチャンネルを呼び出したらにも表示が出ない。
 - メモリーしてないチャンネルを呼び出していないですか。
- 送信したら(“PTT”押す)Err表示が出た。
 - 送信オフセットで送信時の周波数がオフバンドしていませんか。
- スキャン中やスキャン停止後送信してもすぐに電波が出ない。
 - スキャン中に PTT スイッチを押すとスキャン停止命令でスキャンが停止するのみです。再度 PTT スイッチを押してください。2度目から送信になります。
 - VOX スイッチが押してありませんか。
スキャンをPTTスイッチを押すか、VOXの音声入力で停止させた時は、VOXのデイレータイム(約1秒間)中に送信しても電波は発射できません。約1秒間経過してから送信してください。

アマチュア局免許申請書類の書き方

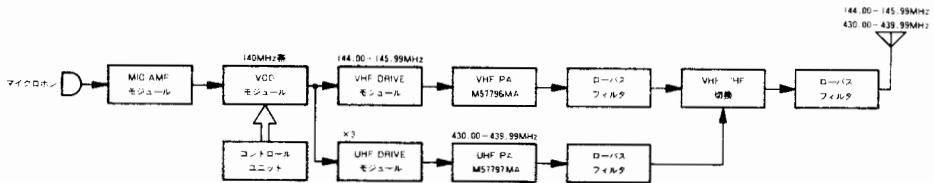
2) 希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式

周波数帯	空中線電力	電波の型式	周波数帯	空中線電力	電波の型式
144M	10	F3			
430M	10	F3			

22工事設計	第 1 送信機	第 2 送信機	第 3 送信機	第 4 送信機	第 5 送信機
発射可能な電波の型式、周波数の範囲	F3 144MHz帯 430MHz帯				
変調の方式	リアクタンス変調				
終段管	名称・電圧・電力 M57796MA×1(144MHz帯) M57797MA×1(430MHz帯) 12V 12W (144MHz帯) 12V 14W (430MHz帯)	×	×	×	×
	電圧・入力	V W	V W	V W	V W
送信空中線の型式			周波数測定装置	A 有 (誤差) B 無	
その他工事設計	電波法第 3 章に規定する条件に合致している。		添付図面	<input type="checkbox"/> 送信機系統図	

送信機系統図(JARL保証認定FT-727Gで免許申請の場合には登録番号Y-105あるいは型名FT-727Gと記入し送信機系統図を省略できます。)

FT-727G送信機系統図



このセットについて、または、ほかの当社製品についてのお問い合わせは、お近くのサービスステーション宛にお願い致します。
またその節はかならずセットの番号（シャシー背面にはってある名板および保証書に記入してあります）をあわせてお知らせ
ください。なお、お手紙をいただくときは、あなたのご住所、ご氏名は忘れずお書きください。

八重洲無線株式会社

営業部 ☎146 東京都大田区下丸子1-20-2



札幌営業所/サービス	☎003	札幌市白石区菊水6条1-1-33 石川ビル	☎011 (823) 1161
仙台営業所/サービス	☎983	仙台市若林区大和町5-6-17	☎022 (235) 5678
関東営業所/サービス	☎332	埼玉県川口市勢平1-5-9	☎048 (222) 0651
東京営業所	☎103	東京都中央区八重洲1-7-7	☎03 (3271) 2861
名古屋営業所/サービス	☎457	名古屋市南区戸部町2-3-4	☎052 (811) 4949
大阪営業所/サービス	☎542	大阪市中央区上汐1-4-6 吉井ビル301号	☎06 (764) 4949
広島営業所/サービス	☎733	広島市西区己斐本町2-12-30 SKビル	☎082 (273) 2332
福岡営業所/サービス	☎812	福岡市博多区上牟田1-16-26 第2山本ビル	☎092 (482) 4082
サービスセンター	☎332	埼玉県川口市勢平1-5-9	☎048 (222) 0651

FT-727G取扱説明書正誤表

取扱説明書中に誤りがありますので、お手数ですが次の様に、追加、訂正、読み換えをお願いいたします。

* 6ページ 左下

⑫ キーボード

受信時に周波数の設定、メモリーの書き込みなど各種の操作を行うキーボードです。⑪LCD表示器内の  (LOCK表示) が消灯しているときに動作します。また送信時には  が点灯している状態でもDTMF機能として操作できます。

* 8ページ 左下

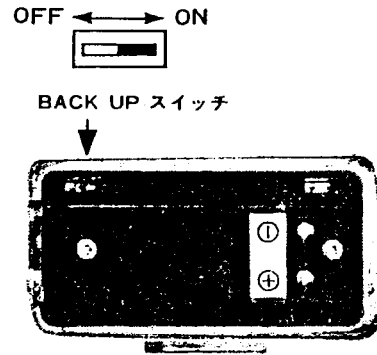


*#(プライオリティ)はダイヤルモード、コールチャンネルモードを受信中、約5秒間に1回約0.5秒の間、メモリーチャンネルを受信するプライオリティ操作を行うためのキーです。(27ページ参照)

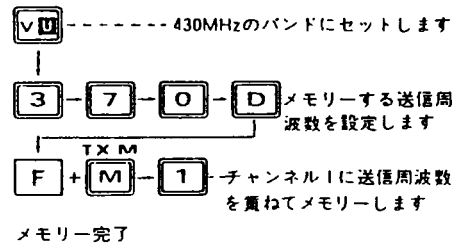
* 15ページ 左上

再充電可能なニッケルカドミウム電池パックです。FNB-3Aのとき送信出力は約4.5W、FNB-4Aのとき送信出力は約5Wになります。

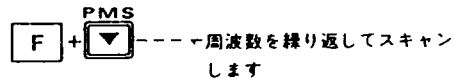
* 22ページ 左下



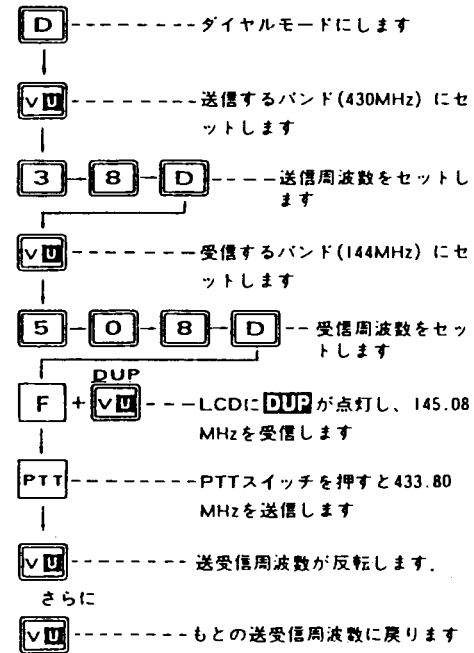
* 23ページ 右中央



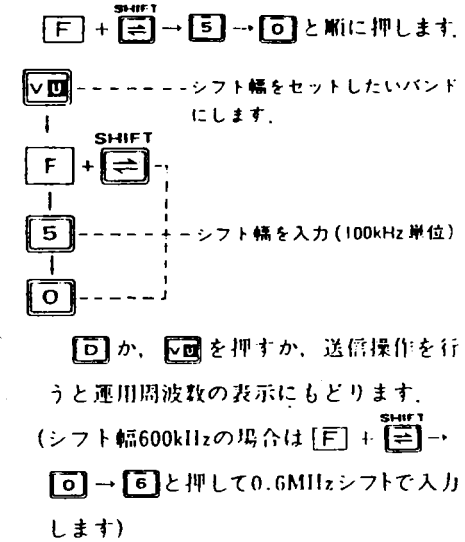
* 26ページ 右中央



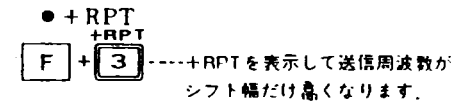
* 28ページ 右中央



* 29ページ 左中央



* 29ページ 右上



* 30ページ 左下

